

GODAIグループ

自治体・学校と連携し、地域のスポーツ
振興や教員の働き方改革に貢献!!

安藤氏の自社採点

企画開発	☆☆☆☆☆
営業力	☆☆☆☆
成長力	☆☆☆☆☆
収益力	☆☆☆☆☆
地域貢献力	☆☆☆☆☆
人材力	☆☆☆☆
専門性	☆☆☆☆☆
リサーチ力	☆☆☆☆☆
計画性	☆☆☆☆☆
リスク マネジメント	☆☆☆☆☆

神奈川県横浜市西区みなとみらい
2-3-5 クイーンズタワー-C棟20F
☎045-650-6811
創業 1932年
従業員 約250名
www.godai.gr.jp

QRコード対応のケータイ
電話でご覧いただけます。



安藤氏の心ごと

長年、中学・高校の体育教師として働いた後、同社に加わった安藤氏。GODAIスポーツアカデミーの教頭も務めている



太鼓判押します!!



白幡小いちょうの会 会長
横田竜一さん

「小学校体力向上プロジェクト」がはじまった当時は、子どもたちの体力低下が問題になっていました。転んでも手をつくことができず、顔を打って保健室に駆け込む子がたくさんいたのです。それが、このプロジェクトを通じて子どもたちの持久力や俊敏性が向上し、保健室に駆け込む子どもが格段に減りました。子どもたちに無償でレッスンを提供していただき、GODAIさんには感謝しています。テニスは身体的な接触が少なく、コロナ禍でも安心して運動させられるのも学校や保護者にとってありがたいことです。



「体力向上サポートプロジェクト」の課外授業の様子。週1回50分のレッスン。安藤氏によれば「道具を使う球技であるテニスは巧緻性や空間認知を鍛えるのに適しており、はやい段階で慣れ親しんでおくことが大事」という



部活動指導員養成基礎講習の様子

横浜を拠点として、首都圏5店舗でテニススクールなどのスポーツビジネスを手掛けるGODAIグループ。ここ数年はとくに自治体や学校との連携の下、つぎつぎとあらたな事業に挑戦している。「体力向上サポートプロジェクト」はそのひとつだ。

同社の安藤美穂氏によれば、神奈川県内の小学生の体力テストのスコアは全国でも最低レベルであり、これをいかに向上させるかが課題になっているという。そこで2014年、同社は

体力向上サポートプロジェクトを立ち上げ、「長年培ってきたスポーツ教育のノウハウを学校に提供しよう」と独自にプログラムを開発、横浜市内の公立小学校の1年生に放課後の課外活動として無償提供することになったそうだ。

このプログラムでは「テニスを楽しみながら体力向上がはかれるのもちろんのこと、通常の習い事と違って、学校生活とリンクする要素をたくさん取り

入れている」と安藤氏。テニスやリクリエーションを通して「児童同士で協力し合ったり、日替わりで全員が何らかの役割やリーダーを経験したり、自分で考えて答えを導き出す練習をしたり」とさまざまな学びを得ることができるとおかげで「児童たちの投力・走力はプロジェクトを実施した後と前とでは大きく違い、向上した」と話す。

他方、同社では未来のスポーツコーチング人材の育成、とくに部活動指導員の養成にも力を入れている。昨今、教員の長時間労働が社会問題となるなか、17年に外部のスポーツ人材を学校の「部活動指導員」として採用できるよう文部科学省が制度化したが、「外部から人を入れることへの学校側の抵抗もあつてなかなか制度活用がすすまず、人手不足や教員の長時間労働の解消にはつなげていないのが現状」という。

こうした状況にあつて、同社は横浜市教育委員会と連携し、14年に開校した専門学校

「GODAIスポーツアカデミー」であらたに「部活動指導員養成基礎講習」をはじめた。この講習のポイントは「学校で指導者として働くうえでのルールや慣習、基礎知識」を学べることに。「いくら競技指導で優れていても、先生として保護者や子どもたちと正しくかわることができなければ学校では受け入れられない」からだ。

もちろん、講習後のフォローも大事にしている。「修了者は部活動指導員の候補人材として登録し、市教育委員会・学校の求めに応じて人材紹介を行って」安藤氏は話す。実際、講習修了者が横浜市立中学校に部活動指導員として任用されるなど、徐々に成果があがりはじめているそうだ。

子どもたちの体力低下も教員の長時間労働も、昨今の学校教育現場における重要課題である。同社のように自治体や学校と連携して課題解消に取り組む事例が全国に広がっていくことを期待したい。